

総合的な学習の時間の成果に関する調査研究

抄 録

本研究は、総合的な学習の時間の成果や指導の状況について、調査を通して明らかにし、指導上の課題を探ることをねらいとした。

調査の特色は、総合的な学習の時間の成果を「児童・生徒に身に付いた力」と「教員や学校の教育活動における望ましい変容」とし、その成果を本人の実感からとらえるため、児童・生徒、教員、管理職それぞれにアンケートを実施したことである。この調査の結果から、次のことが明らかになった。

児童・生徒は、情報の集め方や友達によさに気付くことなどに力が付いたと感じている。また、60%以上の児童・生徒が総合的な学習の時間を「やってよかった」と思いながら学習活動を行っている。教員は、児童・生徒の見方や視野の広がりなどに自分自身の変容を感じている。管理職は、児童・生徒の学習意欲の向上や地域・関係諸機関との連携の深まりに学校の変容を感じている。

次に、成果につながる教員の指導について分析した。教員が一緒に考えてくれた、アドバイスしてくれたと感じている児童・生徒は、そうでない児童・生徒に比べ、身に付いた力の感じ方が強いことが分かった。また、力が付いたと感じている児童・生徒は、そうでない児童・生徒に比べ、多くの学習活動を経験していることが分かった。両者の間で差が見られた活動を分析すると、力が付いたと感じている児童・生徒がより多く経験している活動には、「時間をとってじっくりと考える活動」「集めた情報を整理する活動」「自分の活動について振り返り見直す活動」という3つの要素があることが見えてきた。以上のことから、教員が児童・生徒の実態に即した指導を行うことや、上記の要素を踏まえ、自己を見つめ、思考を深める活動を意図的、計画的に組み入れた指導を行うことが重要であることが分かった。さらに、成果を把握するために作成した今回の調査項目は、児童・生徒が学習を振り返るときや学習内容に即した活動目標を立てるときの視点に活用することも期待できる。

目 次

研究のねらいと方法	171
1 研究の背景とねらい	
2 総合的な学習の時間の成果のとらえ方	
3 研究の方法	
4 アンケート調査の内容	
総合的な学習の時間の成果	176
1 児童・生徒が感じている成果	
2 教員が感じている成果	
3 管理職が感じている成果	
成果につながる教員の指導	183
1 教員の指導の現状と成果に及ぼす影響	
2 児童・生徒の成果と学習活動の関連	
3 教員の指導	
研究のまとめ	189
1 研究の成果	
2 今後の課題	
巻末資料（児童・生徒対象調査用紙）	190

研究のねらいと方法

1 研究の背景とねらい

総合的な学習の時間は、「生きる力」の育成という学習指導要領の基本的なねらいを実現する上で重要な役割を担うものとして創設された。現在、各学校は特色ある教育活動や創意工夫した授業を実践しており、児童・生徒の学習意欲や学び方が向上していることなどが報告されている。

一方で、「目標」や「内容」を明確にしないまま活動を実施し、児童・生徒に必要な力が身に付いたかの評価・検証が十分行われていないことや、必要かつ適切な指導がされず教育的効果があがっていないことなどの課題も指摘されている。

小・中学校においては、本格実施から2年が経過した。本研究では、総合的な学習の時間はそのねらいとする方向に向かって確実に成果をあげているのか、また、成果をあげるための適切な指導が行われているのかについて明らかにしたいと考えた。そこで、研究のねらいを以下のように設定した。

総合的な学習の時間の成果について調査を通して明らかにし、指導上の課題を探る。

各学校が総合的な学習の時間の指導や成果を自己点検・自己評価するための資料を提示する。

2 総合的な学習の時間の成果のとらえ方

都内公立小・中学校の研究紀要を分析した結果、総合的な学習の時間の成果のとらえ方は学校によって観点が異なっており、その内容も多岐にわたっていることが分かった。本研究ではそれらを整理し、この時間の成果を、第一に児童・生徒に身に付いた力、第二に教員や学校の教育活動における望ましい変容とし、研究の方法を構想した。

3 研究の方法

(1) 児童・生徒、教員、管理職へのアンケート調査の実施

これまで、児童・生徒に身に付いた力については、ほとんどが教員の主観による状況把握であった。本研究では、身に付いた力について児童・生徒を対象としたアンケート調査を実施し、本人の実感から成果をとらえることにした。

(2) 成果と学習活動、指導との関連についての分析

児童・生徒に身に付いた力は、各学校でまとめているものの、学習活動や教員の指導との因果関係は十分明らかにされていない。本研究では、アンケートの設問を工夫することで、総合的な学習の時間の成果とともに、成果と学習活動や指導の状況との関連を導き出すことにした。

(3) 成果をあげるための具体的な指導例の収集

成果をあげるための指導のポイントを導き出すため、授業観察及び教員からの聞き取りを実施し、成果と関連の強い指導例の整理・検討を行うことにした。

4 アンケート調査の内容

(1) アンケート調査のねらい

総合的な学習の時間の成果及び指導の状況を明らかにし、指導上の課題を探る。

(2) 3つのアンケート調査の内容

- < 児童・生徒対象調査 >
- 1 総合的な学習の時間の経験年数
 - 2 総合的な学習の時間をやってよかったか
 - 3 経験した学習活動 (30 項目)
 - 4 自分自身に身に付いた力 (30 項目)
 - 5 役に立ったこと
 - 6 教科等との関連

- < 教員対象調査 >
- 1 総合的な学習の時間の指導経験年数
 - 2 総合的な学習の時間はやりがいがあるか
 - 3 指導の状況 (13 項目)
 - 4 教員自身の教育活動の変容 (11 項目)
 - 5 学校全体の変容 (10 項目)
 - 6 役に立ったこと

- < 管理職対象調査 >
- 1 学校での指導の開始年度
 - 2 教職員や学校の変容 (12 項目)
 - 3 管理職としての工夫

(3) アンケート調査の集計と分析

< 集計・分析 1 総合的な学習の時間の成果 > (数字は上記(2)の調査項目)

児童・生徒が感じている成果・・・児童・生徒対象調査 2, 4, 5, 6 の単純集計・分析
・・・・・・・・児童・生徒対象調査 2 と 4 のクロス集計・分析
教員が感じている成果・・・・・・・・教員対象調査 2, 4, 5, 6 の単純集計・分析
・・・・・・・・教員対象調査 2 と 4 のクロス集計・分析
管理職が感じている成果・・・・・・・・管理職対象調査 2, 3 の単純集計・分析

< 集計・分析 2 成果につながる教員の指導 >

教員の指導の状況・・・・・・・・教員対象調査 3 の単純集計・分析
・・・・・・・・児童・生徒対象調査 3 と 4 のクロス集計・分析
児童・生徒が身に付いていないと感じている力・・児童・生徒対象調査 4 の単純集計・分析
児童・生徒に身に付いた力と学習活動の関連・・児童・生徒 3 と 4 のクロス集計・分析

(4) 成果を把握するためのアンケート調査項目

児童・生徒対象調査

総合的な学習の時間の成果を児童・生徒本人の実感からとらえるため、教育課程審議会答申及び学習指導要領に示された総合的な学習の時間の趣旨や活動の特色のほか、「総合的な学習の時間における学習状況の評価等に関する研究」(東京都教職員研修センター紀要第 2 号、平成 15 年 3 月) や各学校で作成した研究紀要等の分析に基づき、8 つの観点を設定した。

次に、8 つの観点について具体的な質問項目を設定した。質問は、児童・生徒が望ましい方向に変容しつつある自分自身の状態を的確にとらえられるよう、「～にするようになってきた」と表現した。8 つの観点及び質問項目は右ページの表 1 の通りである。さらに、アンケート調査には、8 つの観点と関連した分析を行うため、児童・生徒の学習活動の経験を尋ねる項目も作成した。

表1 8つの評価の観点と身に付いた力として設定した質問項目

評価の観点	自分自身に身に付いた力として設定した質問項目
学習に対する主体的な態度	自分の力で調べたり活動したりするようになってきた。 あきらめずに最後まで粘り強く取り組むようになってきた。 新しいことにチャレンジするようになってきた。 “なぜ” “どうなっているの” などの疑問をもつようになってきた。
論理的・多面的・多角的に考える力	物事をすすめる時に見通しをもった計画を立てるようになってきた。 課題に対していろいろな考え方もつようになってきた。 自分の考え方や学び方について他の人と比べるようになってきた。
情報を収集・選択する力	情報を集めるためにいくつかの方法を考えるようになってきた。 目的に応じて必要な情報を選べるようになってきた。
情報を処理・表現する力	集めた情報の関連性を考え整理できるようになってきた。 集めた情報に対して自分の考えをもてるようになってきた。 自分の考えを自信をもって言えるようになってきた。 自分の考えをわかりやすく伝える工夫をするようになってきた。
まわりの人とかかわる力	相談して何かを進めることが楽しくなってきた。 友だちのよさに気付くようになってきた。 地域や学校で大人とあいさつや会話をすることが増えた。 人に対する話し方や聞き方に気を配るようになってきた。 まわりの人に積極的にかかわるようになってきた。
自己評価を行う力	活動について自分自身で振り返るようになってきた。 活動についてさらによい方法を考えるようになってきた。 <input type="radio"/> 自分のよさや得意なことがわかるようになってきた。 <input type="radio"/> 自分の苦手なことや努力することがわかるようになってきた。 <input type="radio"/> 自分の成長や自分に身に付いた力に気付くようになってきた。
他教科等と関連させる力	<input type="radio"/> 教科などで習ったことを総合的な学習の時間で生かせるようになってきた。 <input type="radio"/> 教科などの学習にあらためて興味をもつようになってきた。 <input type="radio"/> 教科などにおける勉強の大事さがわかるようになってきた。
生き方を考える力	<input type="radio"/> まわりの人々の生き方や仕事に関心をもつようになってきた。 <input type="radio"/> 社会や身近な人のためにできることをしたいと思うようになってきた。 <input type="radio"/> 自分の将来や進路について考えるようになってきた。 <input type="radio"/> これからの学習や生活で自信をもって取り組めるものがはっきりしてきた。

教員対象調査

教員自身の教育活動における変容を把握するため、「教員研修の評価に関する研究」(東京都教職員研修センター紀要第2号、平成15年3月)で示された教員の「資質・能力評価基準表」を基に4つの観点を設定し、総合的な学習の時間の指導の特性を踏まえ、次ページの表2のように質問項目を作成した。さらに、成果と教員の指導との関連を明らかにするため、教員の指導の経験を尋ねる項目についても作成した。

表 2 4つの観点と教員自身の変容として設定した質問項目

評価の観点	教員自身の変容として設定した質問項目
児童・生徒との かかわり	今まで気付かなかった児童・生徒の新しい面を発見するようになった。 児童・生徒の学びの状況に合わせて、臨機応変に対応できるようになった。 活動全体を通し様々な場面をとらえて児童・生徒を評価するようになった。
指導法の改善	自分自身の指導の在り方について、あらためて考えるようになった。 児童・生徒が主体的に学び、考えるための具体的な指導方法を工夫するようになった。 児童・生徒の興味・関心をとらえ、学習内容や展開に結び付けるようになった。
指導内容の充実	様々な方法で積極的に情報を集めるようになった。 自分の専門教科等以外の様々な分野の知識が増えた。 教科等で指導すべき基礎的内容について見直すようになった。
教員・地域との かかわり	他の教員と学習内容や方法について話し合う機会が増えた。 保護者や地域の方々とかかわることのよさがわかってきた。

管理職対象調査

管理職から見た教員や学校の教育活動の変容を把握するため、東京都教育委員会が平成12年度に示した「学校評価資料」を基に、そこに学校経営という視点を加えた5つの観点を設定し、教員や学校組織の具体的な変容を想定し、表3のように質問項目を作成した。

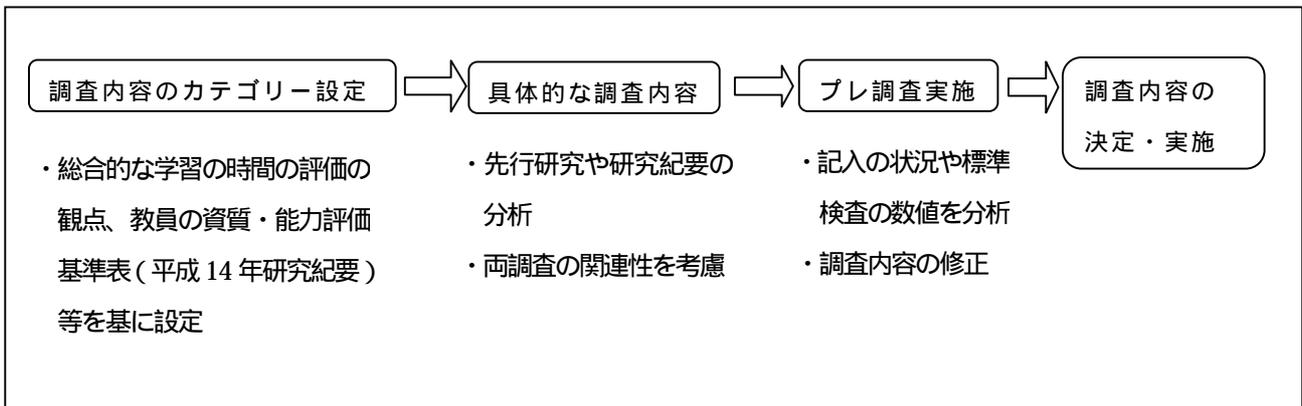
表 3 5つの観点と教員や学校の教育活動の変容として設定した質問項目

学校評価の観点	教育活動の変容として設定した質問項目
児童の変容	児童・生徒が、周囲の事象に関心をもち、意欲的に学習するようになった。 児童・生徒と教職員との関係に広がりや深まりが一層見られるようになった。
教員の能力開発	教員一人一人が研修の必要性を感じとり、研修意欲が向上した。 教職員一人一人の能力や特性が生かされる機会が多くなった。
学習指導上の課題	学年学級を越えて、教員が学習指導について進んで話し合う機会が増えた 教材・教具や校内施設の整備と活用の工夫に、あらためて取り組むようになった。 学年や教科等の関連を踏まえたカリキュラムを編成する力が高まった。 教員が実践を相互評価し、積極的に改善するようになった。
運営上の課題	教員が、管理職に対して報告・連絡・相談等をよく行うようになった。 職員会議をはじめ各種会議や打ち合わせが、効率的に行えるようになった。
保護者・地域との 連携	保護者や地域の方々の学校に対する建設的な意見が多くなった。 地域や関係諸機関との連携・協力が進んだ。

(5) アンケート調査の方法

アンケート調査の実施に至るまで

成果を把握するための調査と同様に、児童・生徒に学習活動の経験を尋ねるための調査や教員に指導の経験を尋ねるための調査についても、観点と関連させながら具体的な質問項目を作成した。その後、児童・生徒、教員、管理職を対象に、それぞれプレ調査を行い、その結果を踏まえ、調査項目の修正を行ったのち内容を決定、実施した。これを流れ図に示すと以下の通りである。



本調査について

総合的な学習の時間の成果、学習活動、指導経験等について、児童・生徒、教員並びに管理職対象に質問紙法を用いてアンケート調査を実施した。調査時期、調査用紙の配布数、回収率等は以下の通りである。

〔調査時期〕

児童・生徒対象アンケート調査	平成15年7月 7日～7月28日
教員対象アンケート調査	平成15年7月22日～8月12日
管理職対象アンケート調査	平成15年7月22日～8月12日

〔回収状況〕

配布先		学校数	配布数	回収数	回収率
児童・生徒対象	都内公立小学校第6学年	15	462	462	100%
	都内公立中学校第3学年	12	424	424	100%
教員対象	都内公立小学校	150	300	270	90.0%
	都内公立中学校	120	240	212	88.3%
管理職対象	都内公立小学校	150	150	135	90.0%
	都内公立中学校	120	120	106	88.3%

総合的な学習の時間の成果

1 児童・生徒が感じている成果

(1) 児童・生徒が感じている成果（項目別）

表4は、総合的な学習の時間を通して、児童・生徒が感じている成果について、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合を高い順に並べたものである。

表4 児童・生徒が感じている自分自身に身に付いた力

小学6年生		中学3年生	
調査項目	%	調査項目	%
友だちのよさに気付くようになってきた	82.1	自分の将来や進路について考えるようになってきた	79.0
自分の力で調べたり活動したりするようになってきた	80.9	友だちのよさに気付くようになってきた	74.4
目的に応じて必要な情報を選べるようになってきた	80.4	目的に応じて必要な情報を選べるようになってきた	71.4
情報を集めるためにいくつかの方法を考えるようになってきた	77.7	自分の力で調べたり活動したりするようになってきた	69.8
“なぜ”“どうなっているの”などの疑問をもつようになってきた	77.1	情報を集めるためにいくつかの方法を考えるようになってきた	69.7
自分の苦手なことや努力することがわかるようになってきた	76.2	“なぜ”“どうなっているの”などの疑問をもつようになってきた	68.4
自分の将来や進路について考えるようになってきた	76.1	教科などにおける勉強の大事さがわかるようになってきた	68.3
新しいことにチャレンジするようになってきた	75.6	集めた情報に対して自分の考えをもてるようになってきた	67.3
集めた情報に対して自分の考えをもてるようになってきた	74.6	人に対する話し方や聞き方に気を配るようになってきた	66.6
人に対する話し方や聞き方に気を配るようになってきた	74.4	まわりの人々の生き方や仕事に関心をもつようになってきた	66.3
あきらめずに最後まで粘り強く取り組むようになってきた	73.5	自分の苦手なことや努力することがわかるようになってきた	65.8
教科などにおける勉強の大事さがわかるようになってきた	73.2	新しいことにチャレンジするようになってきた	64.7
相談して何かを進めることが楽しくなってきた	73.1	社会や身近な人のためにできることをしたいと思うようになってきた	64.3
社会や身近な人のためにできることをしたいと思うようになってきた	71.6	課題に対していろいろな考え方もつようになってきた	63.5
まわりの人々の生き方や仕事に関心をもつようになってきた	70.7	自分の考え方や学び方について他の人と比べるようになってきた	63.0
自分の成長や自分に身に付いた力に気付くようになってきた	70.0	あきらめずに最後まで粘り強く取り組むようになってきた	61.5
課題に対していろいろな考え方もつようになってきた	69.7	集めた情報の関連性を考え整理できるようになってきた	61.0
地域や学校で大人とあいさつや会話をするが増えた	69.4	相談して何かを進めることが楽しくなってきた	59.3
これからの学習や生活で自信をもって取り組めるものがはっきりしてきた	68.6	地域や学校で大人とあいさつや会話をするが増えた	58.7
自分のよさや得意なことがわかるようになってきた	67.8	これからの学習や生活で自信をもって取り組めるものがはっきりしてきた	58.1
教科などの学習にあらためて興味をもつようになってきた	64.6	まわりの人に積極的にかかわるようになってきた	55.5
自分の考え方や学び方について他の人と比べるようになってきた	62.0	教科などの学習にあらためて興味をもつようになってきた	53.8
教科などで習ったことを総合的な学習の時間で生かせるようになってきた	61.3	自分の成長や自分に身に付いた力に気付くようになってきた	52.2
活動についてさらにより方法を考えるようになってきた	60.6	活動について自分自身で振り返るようになってきた	51.8
集めた情報の関連性を考え整理できるようになってきた	59.6	自分のよさや得意なことがわかるようになってきた	51.5
まわりの人に積極的にかかわるようになってきた	59.3	活動についてさらにより方法を考えるようになってきた	51.4
物事をすすめる時に見通しをもった計画を立てるようになってきた	58.7	自分の考えをわかりやすく伝える工夫をするようになってきた	51.3
自分の考えを自信をもって言えるようになってきた	57.5	物事をすすめる時に見通しをもった計画を立てるようになってきた	50.7
自分の考えをわかりやすく伝える工夫をするようになってきた	56.2	自分の考えを自信をもって言えるようになってきた	44.9
活動について自分自身で振り返るようになってきた	55.1	教科などで習ったことを総合的な学習の時間で生かせるようになってきた	44.8

小・中学生ともに、友達もよさに気付くようになったことのほか、自分の力で調べることや自分から疑問をもつことなど、学習に対して主体的に取り組む姿勢が身に付いてきたと実感している。また、情報の選び方、情報を集める方法など学習の方法に関する能力が身に付いたとの回答も多い。これらは総合的な学習の時間がねらいとしているところと一致している。中学生の回答は、自分の将来や進路について考えることが最も多くなっているものの、全般的には校種が異なっても小学生と同じような項目が上位を占めていることが分かる。

以下、上位項目に関連する自由記述を示す。

友達のよさへの気付き

- ・友達がいろいろな方法で調べているのを見て、よく気が付くなあと感じた。
- ・みんなと協力することで、仲間と学ぶことは大事なことだと思った。

学習に対する主体的な態度

- ・以前より自分から調べようとするようになった。
- ・オゾン層破壊の学習で、なぜ破壊されたのか、これからどのように守っていくのかという疑問をもった。

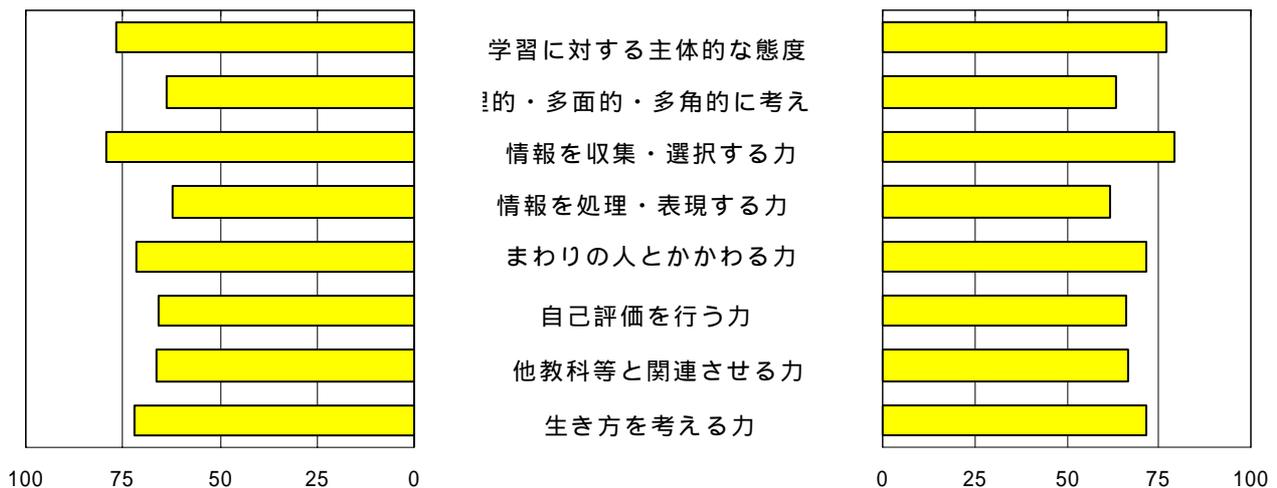
目的に応じた情報の選択

- ・たくさんの資料の中から、発表する時にみんなに見せたい写真を選んだ。
- ・課題について調べている途中で、知りたいことが出てきたのでアンケート調査をした。

(2) 児童・生徒が感じている成果（観点別）

グラフ1は、前ページの表4で示した「児童・生徒が感じる自分自身に身に付いた力」の30項目を8つの評価の観点（173ページ参照）ごとに集計した結果である。

グラフ1 評価の観点ごとにまとめた児童・生徒に身に付いた力

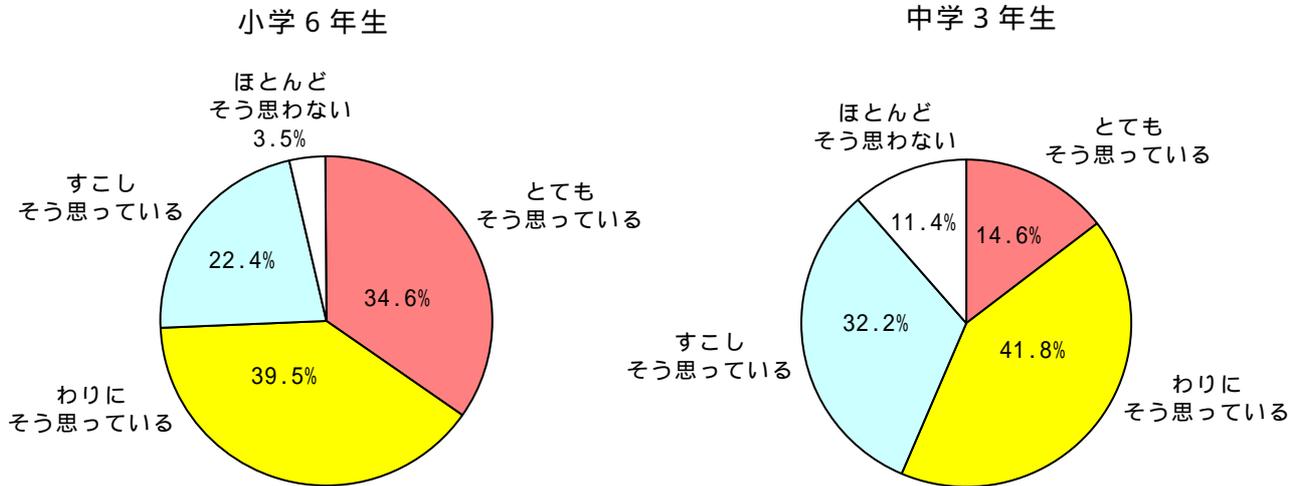


この結果から、小・中学生とも、主体的な態度や情報を収集・選択する力、まわりの人とかかわる力、生き方を考える力について60%以上の児童・生徒が力が付いたと感じていることが分かる。

(3) 児童・生徒の総合的な学習の時間に対する「やりがい」

グラフ2は、児童・生徒が総合的な学習の時間について、どの程度やってよかったと感じているかを尋ねた結果である。

グラフ2 どの程度「やってよかった」と思っていますか



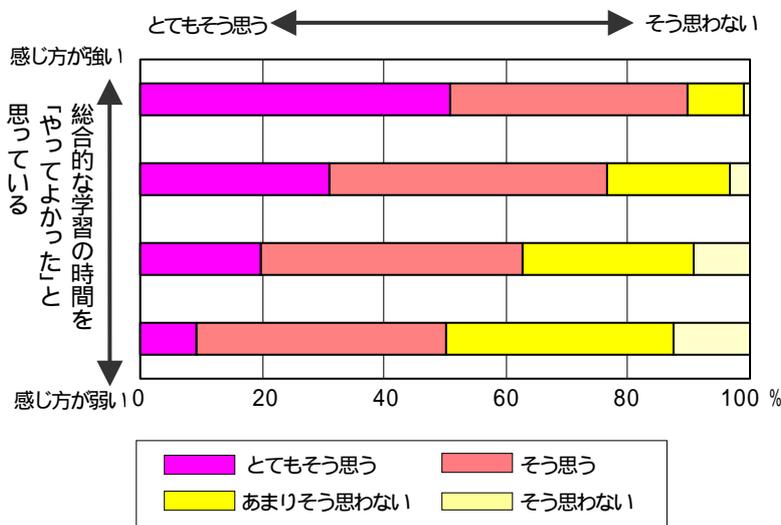
「とてもそう思っている」「わりにそう思っている」と答えた割合は、小学生が74%、中学生が56%であった。多くの児童・生徒は、総合的な学習の時間についてやってよかったと感じていることが分かる。(以下、これを「やりがい」とも表す)

次に、総合的な学習の時間のやりがいと身に付いた力にはどのような関連があるのかを探った。グラフ3はその結果を示したものである。

グラフ3

総合的な学習の時間のやりがいと身に付いた力との関連
小中合同

情報を集めるためのいくつかの方法について考えるようになってきた



総合的な学習の時間について「やってよかった」と強く感じている児童・生徒ほど、「情報を集めるためにいくつかの方法を考えるようになった」と強く感じていることが分かる。他の身に付いた力についても同じような傾向が見られた。

このことから、総合的な学習の時間を通して様々な力が身に付いていくことを児童・生徒に実感させることが、学習に対するやりがいを高めていくことにつながる事が分かる。

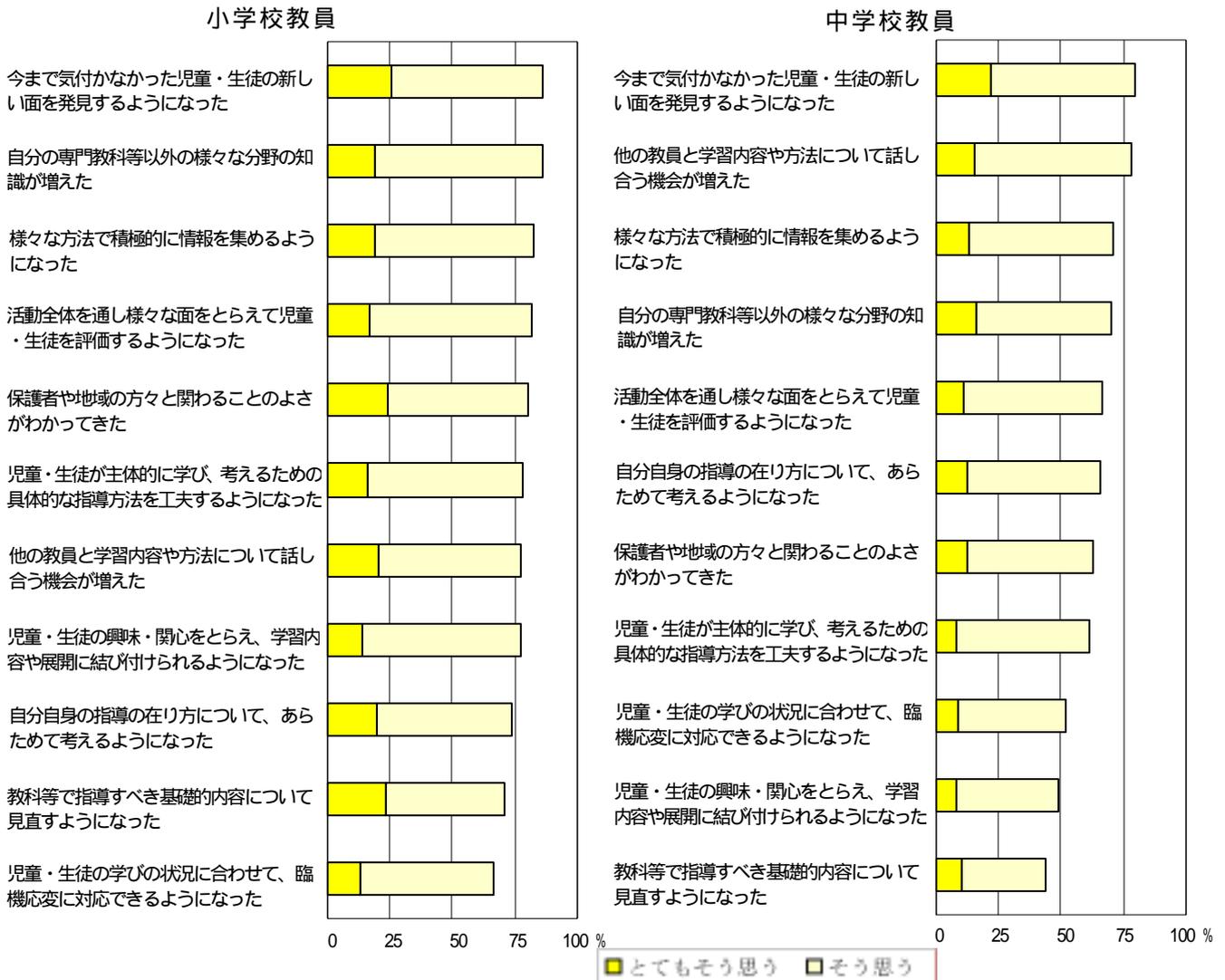
2 教員が感じている成果

(1) 教員自身の変容

ここでは、総合的な学習の時間を指導することにより、教員に望ましい変容があったのかについて探った。

グラフ4は、総合的な学習の時間を実施したことによって、教員自身の教育活動にどのような影響があったかについて尋ねた結果である。11の調査項目について、「とてもそう思う」「そう思う」「あまりそう思わない」と答えた割合を示している。

グラフ4 教員が感じる自分自身の変容



小、中学校の教員の75%以上は、児童・生徒の新しい面を発見したと答えている。また、情報を集める視野が広がったと答えた教員も多い。中学校の特色としては、教員同士が指導内容や指導方法について話し合う機会が増えたことである。

以下に教員自身の変容を尋ねた自由記述を示す。

児童・生徒の新たな面の気付き

- ・子どもの気付きを大切にすることができるようになったことで、多様な能力や可能性を発見し、子ども観が変わった。
- ・生徒が自分の課題を解決していく過程に立ち会うことで、教科の授業では見られない生徒

のよい面が見えてきて、生徒をより理解することができるようになった。

情報を集める視野の広がり

- ・地域や社会などに日々アンテナを張り、児童の実態を把握しながら、大テーマを投げかけ児童とともに追究する喜び、達成感を味わえた。
- ・学習を進めるための手だてが必要なため、学校以外の場において授業の中で活用できそうな情報に敏感になった。

教員同士の話し合いの増加

- ・より多くの大人の目（学年・学級の枠を超えた学年での取組、学年の枠を取り払った高学年との取組、専科や養護教諭、地域のゲストティーチャー等）で子どもたちを見ることによって、子どもたちの様々なよさについて先生方で話すことが増えた。

これらのことから、教員は、様々な場面で自分自身の変容を感じるとともに、総合的な学習の時間を肯定的に受け止めていることが分かった。

(2) 学校全体に及ぼした影響

表5は、総合的な学習の時間を実施したことにより、学校全体に及ぼした影響について尋ねた結果である。（複数回答）

表5 学校全体に及ぼした影響

項目	小学校 (%)	中学校 (%)
活動内容の系統性を考え、学校全体で総合的な学習の時間の指導計画を作成した。	74.3	66.2
教科間及び総合的な学習の時間との関連を図った指導計画を学校全体で作成した。	49.4	21.6
自校の特色について話し合い、教員間の共通理解が進んだ。	54.2	46.1
学校図書館やコンピュータ等の整備や活用の工夫を行った。	65.6	67.2
必要な研修内容を考え、校内研修を見直すようになった。	34.0	33.8
個々の児童・生徒に応じた指導内容と方法について、教員間で話し合う機会が多くなった。	41.5	38.2
学年学級を越え、児童・生徒と教員等との交流が多くなった。	49.8	25.0
管理職と教員の間で、授業にかかわることについて話し合う機会が増えた。	25.3	18.6
保護者や地域の方々の学校に対する信頼感が深まった。	25.3	21.6
その他	3.2	3.4

10項目の中から特にあてはまるものを選択した割合を示した。また、校種ごとに割合の高い項目から4位までを網掛けにして示した。

小・中学校とも、選択の割合が高かった項目は、活動内容の系統性を考え学校全体で総合的な学習の時間の指導計画を作成したことや、学校図書館やコンピュータ等の整備や活用の工夫を行った項目である。

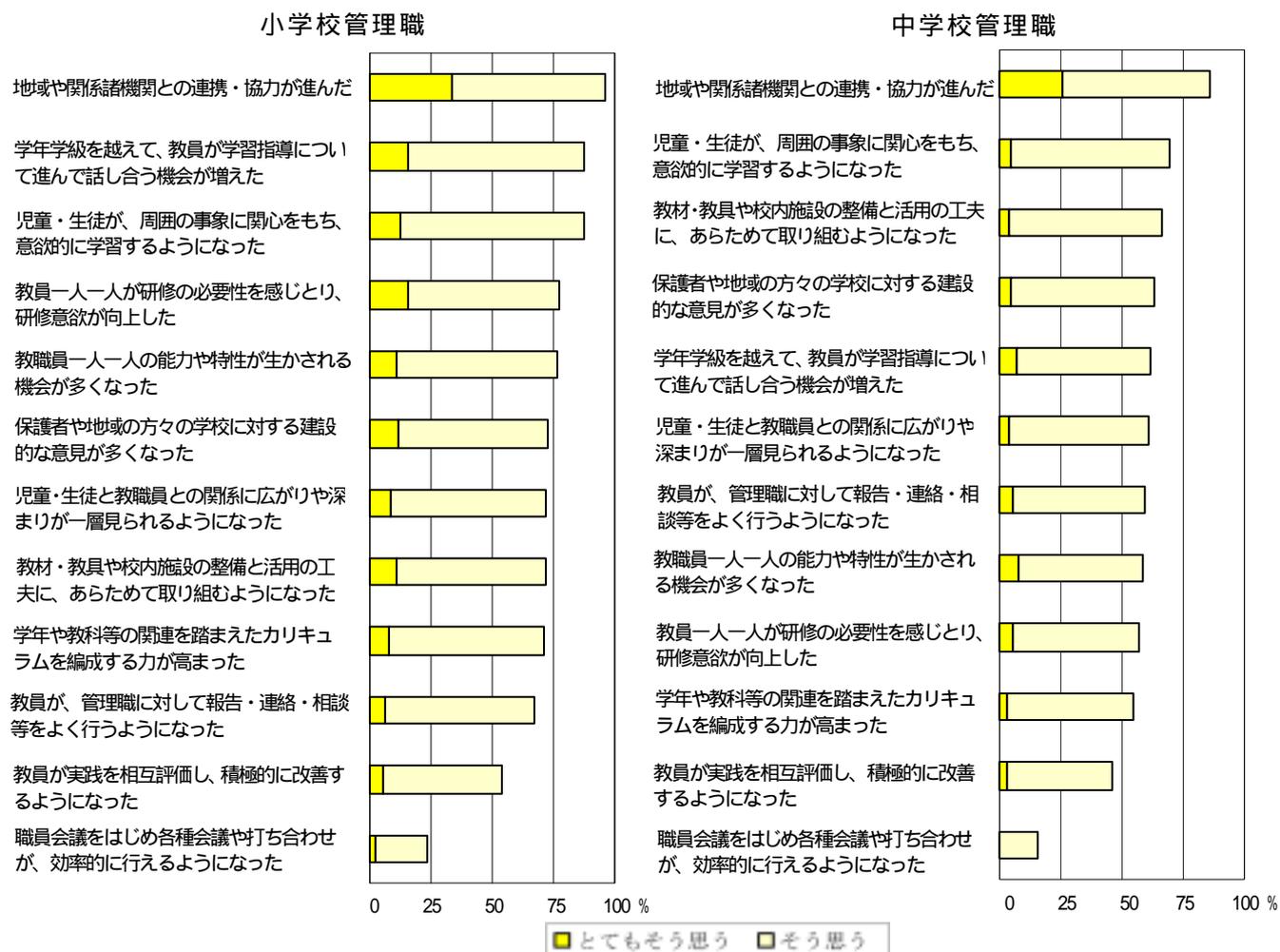
小学校では、児童と教員との交流が増えたこと、中学校では、指導内容と方法について、教員間で話し合う機会が増えたことが挙げられる。このことから、総合的な学習の時間が学習指導面においてよい影響を及ぼしていることが分かる。

しかし、研修内容の見直しや管理職と教員間の話し合い、保護者等の学校に対する信頼感についての教員の意識は、他の項目と比べて低い割合を示している。また中学校では、教科間及び総合的な学習の時間との関連を図った指導計画の作成が2割程度であり、今後、教員間で学習内容や指導の連携を図っていくことが課題と言える。

3 管理職が感じている成果

グラフ7は、総合的な学習の時間を実施して、管理職がとらえた教員や学校の変容についての結果である。

グラフ7 管理職が感じる学校の変容



小・中学校の管理職とも、地域や関係諸機関との連携が進んだことに最も成果を感じている。また、児童・生徒が周囲の事象に関心を持ち意欲的に学習するようになったことも成果として挙げている。校種別にみると、小学校では、教員が学習指導について話し合う機会が増えたことや研修意欲が向上したことを多くの管理職が挙げている。中学校では、教材・教具や校内施設の整備と活用の工夫したことや、保護者や地域の方からの学校に対する姿勢の変化があったことを多くの管理職が挙げている。

一方、教員が実践を相互評価し積極的に改善することについては、50%程度の変容ととらえている。取組内容や指導方法について教員が互いに評価し合い、指導計画の修正に努めることができるよう、管理職が積極的に働きかけることが求められる。以下に、成果をあげるために管理職が行ってきた学校経営の工夫について、多かった自由記述を示す。

- ・ 地域の人材・施設に関する情報の収集と教員への情報提供を行った。
- ・ 地域や外部機関との連携を密に行うように、教員の役割を明確にし、場を設定した。
- ・ 先進校、研究校の実践を紹介する機会を多くもち、実践の方法等を学ばせるようにした。
- ・ 総合的な学習の時間の活動内容や評価方法について、教員の相談にのりながら助言した。

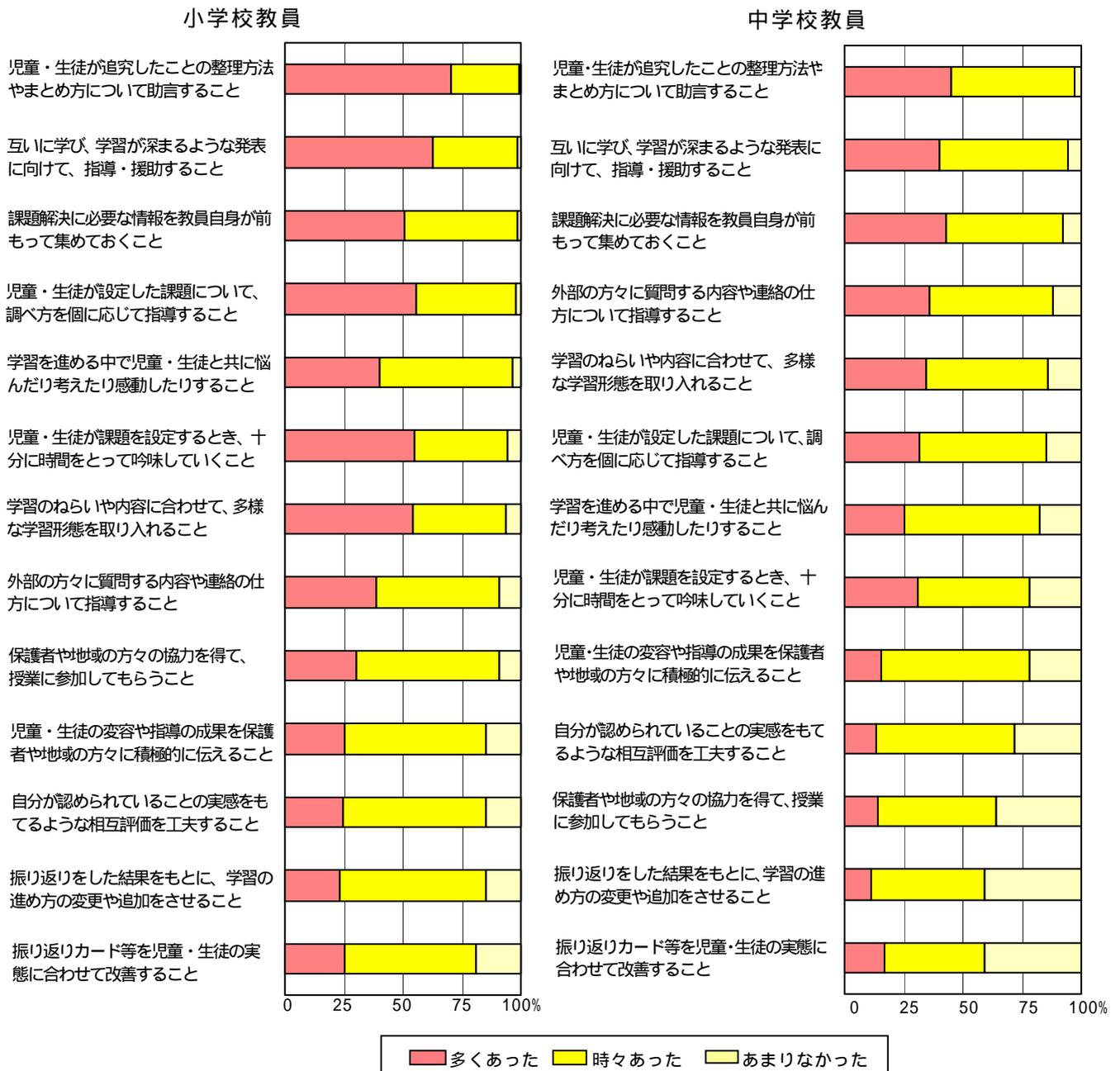
成果につながる教員の指導

1 教員の指導の現状と成果に及ぼす影響

総合的な学習の時間は、児童・生徒に様々な力が身に付いたと感じさせているなどの成果をあげていることはすでに触れた。そこで、こうした成果をもたらした教員の指導について、その現状を分析することとした。

まず、教員の指導内容と児童・生徒に身に付いた力との関連について探った。グラフ8は、総合的な学習の時間の指導に関して「多くあった」「ときどきあった」と回答した割合を多い順に示したものである。

グラフ8 教員の指導の現状



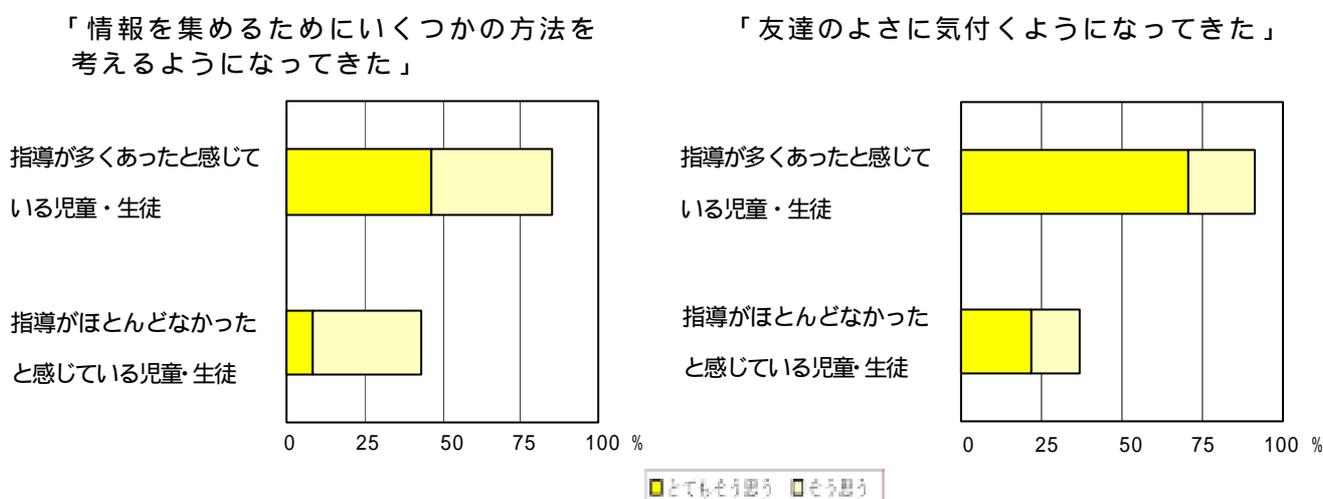
小・中学校の教員とも、追究したことの整理方法やまとめ方、発表に向けての指導を多く行っていることが分かる。それに伴い、教員自身が情報収集に積極的になったことも分かる。また、ここで指導内容と「1 児童・生徒が感じている成果」(176 ページ参照)とを比較してみ

ると、指導内容の上位項目は、児童・生徒に身に付いた力の上位項目である「自分の力で調べることや目的に応じて必要な情報を集めること」などに関連があると言える。

一方、振り返りカード等の改善や相互評価の工夫、振り返りのあとに進め方の追加や変更の指導等を行っている教員は少ない。この点についても、身に付いた力の下位項目と関連があると言える。

次に、指導を受けたことが、児童・生徒にどのように影響しているのかについて探った。グラフ9は、「調べ方やまとめ方についてアドバイスしてくれた」「困ったときに一緒に考えてくれた」等の指導が多くあったと感じている児童・生徒とそうでない児童・生徒の、身に付いた力の違いを示したものである。

グラフ9 教員の指導が及ぼす身に付いた力への影響
小中合同



指導が多くあったと感じている児童・生徒ほど、そうでない児童・生徒に比べ「情報を集めるために幾つかの方法を考えるようになってきた」などの力が付いたと強く感じている。さらに、他の身に付いた力の項目についても、同様の結果がみられた。

グラフ8、グラフ9の結果から、教員が指導してきた内容は確実に成果につながっており、さらに成果をあげていくためには、児童・生徒一人一人の実態に即した指導が重要であることが分かった。

2 児童・生徒の成果と学習活動の関連

これまでの調査結果から、成果をあげるために教員の指導が重要であることが再認識された。そこで、成果をあげるための具体的な指導を導き出すため、児童・生徒に十分身に付いていない力に着目し、分析を進めることとした。

(1) 児童・生徒に十分身に付いていない力

次ページの表6は、表4(176ページ参照)の「児童・生徒が感じている自分自身に身に付いた力」下位5項目を表している。

表 6 児童・生徒が感じている自分自身に身に付いた力の下位 5 項目

小学 6 年生

活動について自分自身で振り返るようになってきた	55.1%
自分の考えをわかりやすく伝える工夫をするようになってきた	56.2%
自分の考えを自信をもって言えるようになってきた	57.5%
物事をすすめる時に見通しをもった計画を立てるようになってきた	58.7%
まわりの人に積極的にかかわるようになってきた	59.3%

中学 3 年生

教科などで習ったことを総合的な学習の時間で生かせるようになってきた	44.8%
自分の考えを自信をもって言えるようになってきた	44.9%
物事をすすめる時に見通しをもった計画を立てるようになってきた	50.7%
自分の考えをわかりやすく伝える工夫をするようになってきた	51.3%
活動についてさらに良い方法を考えるようになってきた	51.4%

小・中学生とも、見通しをもった計画を立てることや活動を振り返ることなど、自分で考え、試行錯誤しながら学習を進める項目の割合が低くなっている。また、自分の考えを自信をもって言ったり、自分の考えをわかりやすく伝えたりするなどの項目も割合が低い。これらはいずれも 60% 以下となっており、本研究ではこれらを十分身に付いていない力ととらえた。

(2) 下位 5 項目についてのグループ分け

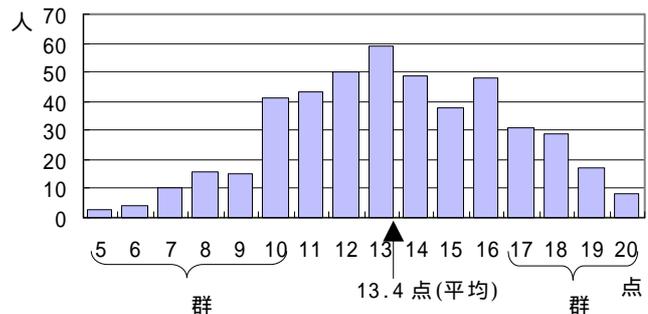
表 6 で示したまだ十分身に付いていない力の 5 項目について、「力が付いたと感じている児童・生徒」と「そうでない児童・生徒」の違いを明らかにすることによって、指導の方策を探ることにした。そのため、「力が付いたと感じている児童・生徒」と「そうでない児童・生徒」のグループ分けを以下の方法で行った。

表 6 の 5 項目について、「とてもそう思う」と回答した場合は 4 点、以下同様に「そう思う」3 点、「あまりそう思わない」2 点、「そう思わない」1 点として、児童・生徒一人一人の合計点を出した。グラフ 10 のように合計点の平均点（小学 6 年生では 13.4 点）から両側に 1 標準偏差を超える児童の群をそれぞれ設定した。「力が付いたと十分感じている児童」のグループを 群とし、「力が付いていないと感じている児童」のグループを 群とした。

この 群のグループは、ほとんどの項目について「とてもそう思う」と回答している集団である。 群のグループは、ほとんどの項目を「あまりそう思わない」か「そう思わない」と回答している集団である。中学生も同様の手順でグループ分けを行った。

次に、 群、 群の比較を通して以下の分析を行った。

グラフ 10 身に付いた力の下位 5 項目の全体分布 小学 6 年生



群 力が付いたと感じている児童・・・合計 17 点以上
 群 力が付いていないと感じている児童・・・合計 10 点以下

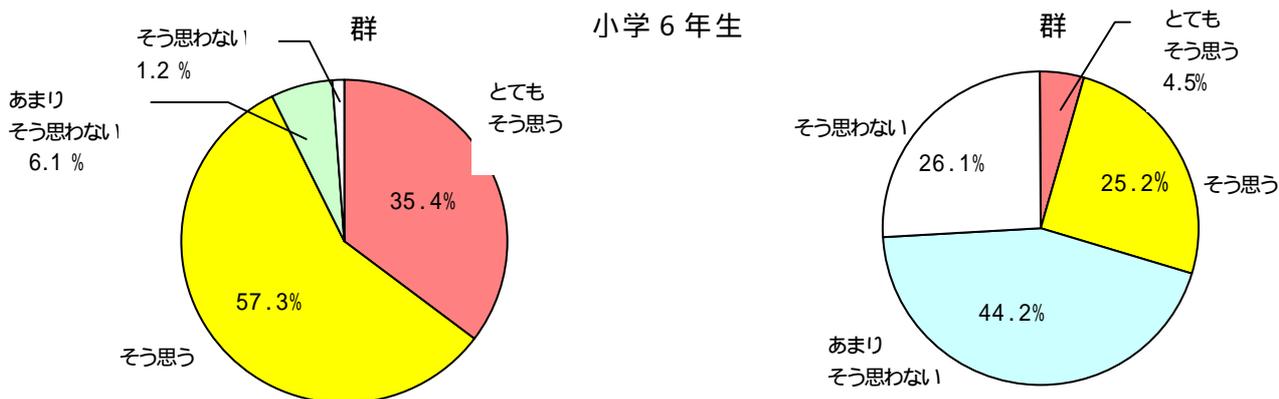
(3) 群と 群の比較

同じ学習活動における 群と 群の身に付いた力の感じ方の比較

グラフ 11 は、「調べるときにコンピュータで情報を集める」という学習活動を行った 群と 群について、「集めた情報の関連性を考え整理できるようになってきた」と感じた割合を比較したものである。

グラフ 11 調べるときにコンピュータで情報を集める活動を行った 群と 群の比較

調査項目 「集めた情報の関連性を考え整理できるようになってきた」



群の児童は、 群の児童に比べ、同じ学習活動をしていても、集めた情報の関連性を考え整理するようになってきたと感じていることが分かる。他のすべての学習活動においても、 群の児童は 群の児童よりも成果を実感していることが分かった。

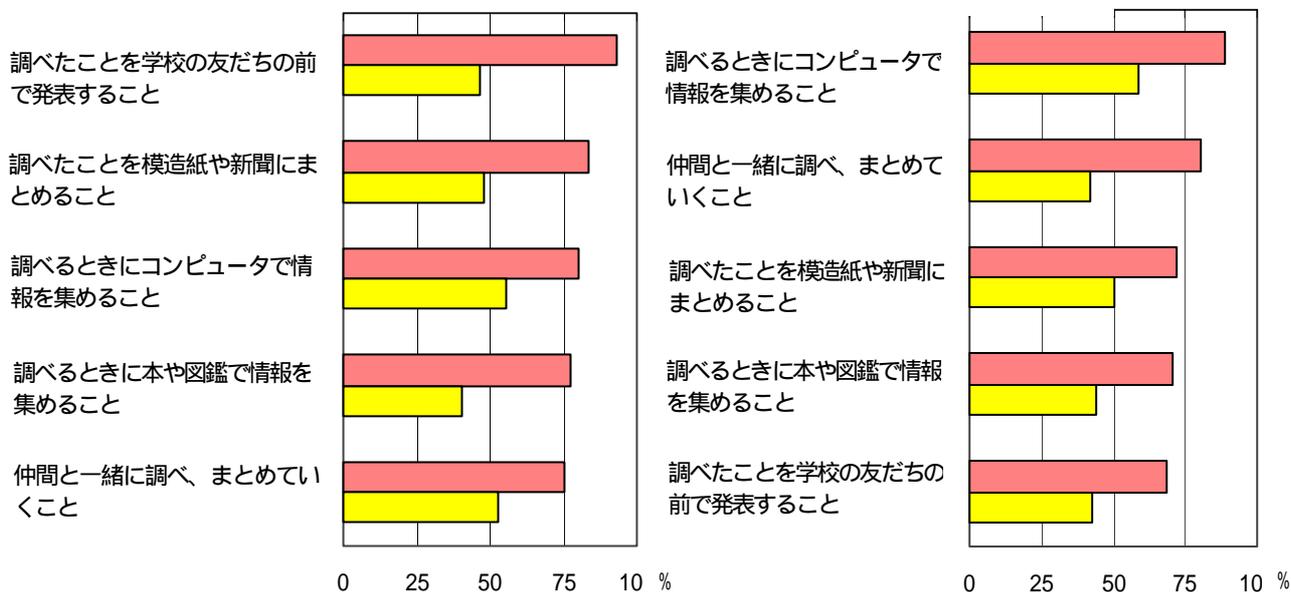
群、 群の学習活動の比較

群のように活動を成果につなげることができる児童・生徒を育てるため、 群と 群の児童・生徒が経験している学習活動を比較することにした。両者の差が小さい学習活動をグラフ 12 に、差が大きいものをグラフ 13 に示した。

グラフ 12 群、 群で差のあまり見られなかった学習活動

小学6年生

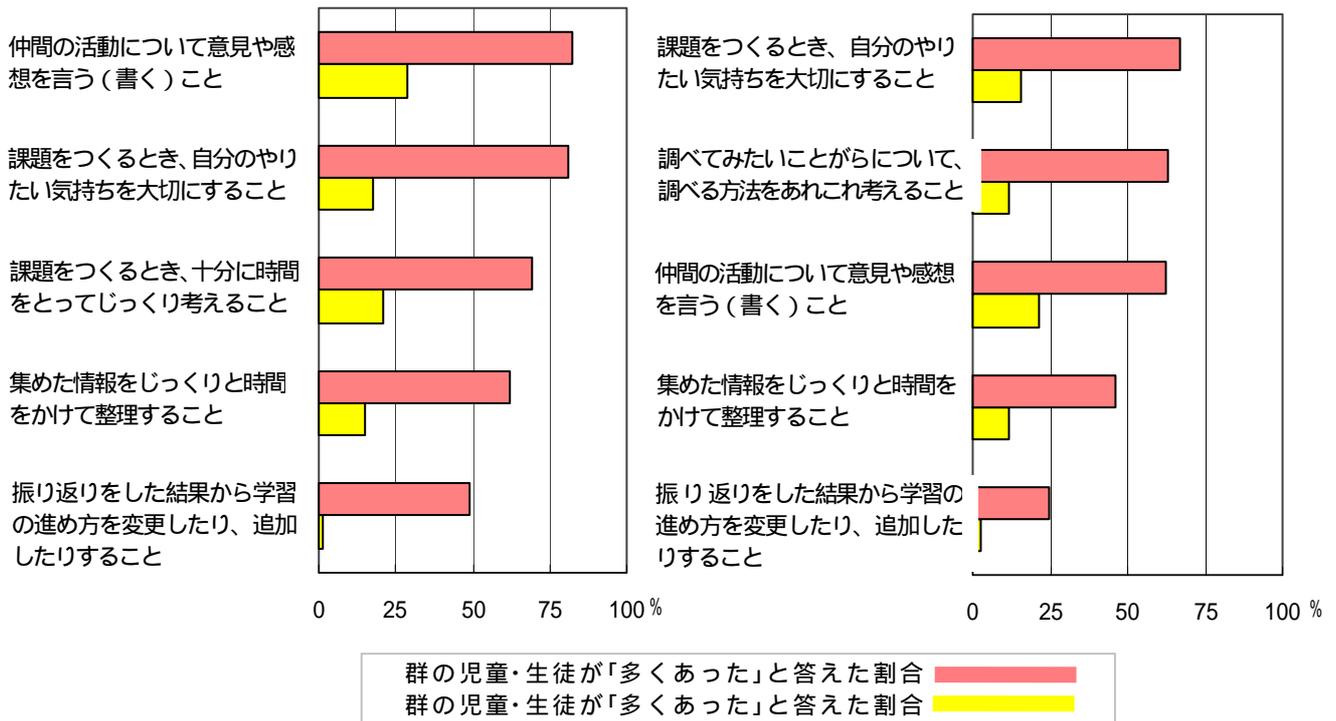
中学3年生



グラフ 13 群、群で差の大きかった学習活動

小学 6 年生

中学 3 年生



グラフ 12 及びグラフ 13 のどちらの学習活動においても、群の児童・生徒は、群の児童・生徒に比べて、「多くあった」と答えている割合が高い。このことから、様々な学習活動を十分時間をとって経験させることが、児童・生徒の成果をあげることに繋がると言える。

グラフ 12 から、両者にあまり差が見られない活動は、調べることやまとめること、発表すること等、総合的な学習の時間によく行われている活動である。

グラフ 13 から、両者に差が大きく見られた活動は、自分の気持ちを大切にすることや、時間をかけて考えたり整理したりすること、振り返りをした結果から学習の進め方を変更したり追加したりすることなど、自己を見つめ思考を深めるような活動である。

これらのことから、思考を深める活動を意図的、計画的に行うことにより、児童・生徒に様々な力を付けていくことができるのではないかと考えた。

3 教員の指導

児童・生徒に身に付いた力と 群、 群の児童・生徒との比較、教員の指導等の調査結果やその分析から、総合的な学習の時間における指導上の課題を以下の2点ととらえた。

児童・生徒と一緒に考えたり、具体的にアドバイスしたりするなど児童・生徒の学習活動の実態に即した指導を行う必要がある。

「時間をとってじっくりと考える活動」「集めた情報を整理する活動」「自分の活動について振り返り見直す活動」など、自己を見つめ思考を深める活動を意図的、計画的に取り入れた指導を行う必要がある。

次に、これらの指導上の課題について、先進的に実践を行っている教員から授業についての聞き取りを行うなどして、具体的な指導のポイントを導き出した。以下は、そのポイントの一部を示したものである。

< 指導のポイント >

時間をとってじっくりと考える活動

- ・課題をつくる時、これまでの活動や経験を思い起こすように助言する。
- ・課題をつくる時、児童・生徒が納得のいく課題をつくれるまで十分に時間を確保する。
- ・児童・生徒が自分の活動についてその根拠を明らかにできるように問い掛ける。
- ・ウェビングやイメージマップを使い、児童・生徒に学びの広がりを気付かせる。

集めた情報を整理する活動

- ・児童・生徒がいつも自分の課題や追究内容を確認しながら、学習を進めるように助言する。
- ・コンピュータで調べている児童・生徒に、必要な情報をまとめて記録するように助言する。
- ・今わかっていることとまだわからないことを明確にするよう児童・生徒に確認する。
- ・課題をもう一度確認して、必要な情報とそうでない情報を整理する作業を一緒に行う。

自分の活動について振り返り見直す活動

- ・図書室の本だけで調べている児童・生徒に対して、インタビューやアンケートなど、他の方法を例示する。
- ・まだ調べていないことや新たに疑問に思ったことについて整理し、活動の見通しをもつように助言する。
- ・学習のまとめで学んだことを生活に生かす視点として例示する。

これらを分析すると、教員が励ましの声をかけたり、振り返りカードを書かせたりするだけでなく、一緒に作業を行ったり、例を示したり、明確な助言を行ったりしているものが多い。こうした指導を効果的に行うためには、日ごろより児童・生徒の学習状況を様々な方法で把握することが必要である。

各学校においては、 で述べた指導上の課題を踏まえ、総合的な学習の時間の指導を教員一人一人が実践するとともに、教員間で情報を交換し合い、指導についての相互評価を行うなど、常に指導の改善を図っていくことが重要である。

研究のまとめ

1 研究の成果

児童・生徒対象調査、教員対象調査、管理職対象調査を実施し、その結果を分析したことにより、以下のことが明らかになった。

(1) 総合的な学習の時間の成果と指導上の課題

総合的な学習の時間のなかで、児童・生徒は、主体的に学ぶ姿勢や情報の集め方、友達よさに気付くことなどに力が付いたと感じている。教員は、児童・生徒の見方や自分自身の視野の広がりなどに自分自身の変容を感じている。また管理職は、児童・生徒の学習意欲の向上や地域や関係諸機関との連携の深まりなどに学校の変容を感じている。三者とも上位項目についての回答が80%近くになっており、これらのことから総合的な学習の時間は成果をあげていることが分かった。

指導上の課題として、児童・生徒と一緒に考えたり、具体的にアドバイスしたりするなど児童・生徒一人一人に応じた指導の重要性や、様々な学習活動を経験させる指導が大切であることが分かった。その中でも特に、「時間をとってじっくりと考える活動」「集めた情報を整理する活動」「自分の活動について振り返り見直す活動」など、自己を見つめ思考を深める活動を意図的、計画的に取り入れた指導を行う必要があることが分かった。

これらの活動を充実させるためには、教員が児童・生徒一人一人の学習活動に対し、評価の観点を設け分析的に評価するなど、その学習状況を十分理解しておくことが重要である。さらに、児童・生徒一人一人の学習状況に対し、友達との話し合いの場や自分で考える時間を設定したり、わかりやすい事例を提示したりするなど、適切な指導を十分行っていくことが重要である。

また、管理職対象の調査からは、成果をあげる工夫として、外的な条件整備に加えて、教員に対し、教育の内容や方法に関する相談に応じたり、先進的な実践研究などの情報を提供したりするなど、教員を積極的に支援していることが明らかになった。今後は、教科と総合的な学習の時間との関連を図ることや、教員間で相互評価し合い指導の改善を図ることについてリーダーシップを発揮することが望まれる。

(2) 総合的な学習の時間の成果と指導を自己点検・自己評価できる資料の提示

本研究で作成した調査用紙は、各学年や様々な学習活動に対応できるものである。調査を実施、集計、分析したことによって、児童・生徒や教員、学校の成果を明らかにする一方で、各学校が自らの成果や指導について自己点検・自己評価する上でも本調査用紙が有効であることが確認できたと言える。

さらに、一つ一つの調査項目は、児童・生徒が学習を振り返る時や学習内容に即した活動目標を立てる時の視点に活用できることも明らかになった。

2 今後の課題

各学校が総合的な学習の時間の指導や成果について自己点検・自己評価し、自校の取組を見直すことができるよう、リーフレットやホームページ等を用いて、この調査の意義やねらいとともに、今回の調査内容や調査結果の普及に努める。また、調査内容や調査結果を各研修会で活用し、総合的な学習の時間の充実を図ることが今後の課題である。

総合的な学習の時間に関するアンケート調査

【1】総合的な学習の時間は、何年生の時からありましたか。あてはまる方の()に学年を入れてください。

小学校()年生から 中学校()年生から

【2】あなたは、総合的な学習の時間をやってみて、どの程度「やってよかった」と思っていますか。もっともあてはまる言葉をア～エの中から選んで で囲んでください。

ア.とてもそう思っている イ.わりにそう思っている ウ.すこしそう思っている エ.ほとんどそう思わない

【3】あなたがこれまでに経験した総合的な学習の時間のことから、「多くあった」「たまにあった」「まったくなかった」の中からもっともあてはまるところに を付けてください。

	多くあった	たまにあった	まったくなかった
課題をつくる時、自分のやりたい気持ちを大切にすること			
課題をつくる時、十分に時間をとってじっくりと考えること			
課題をつくる時、直接見たり、体験したりすること			
調べてみたいことからについて、調べる方法をあれこれ考えること			
調べてみたいことからについて、その答えを予想すること			
その場に行って、見たり、確かめたり、実験したりすること			
作物を育てたり、ものをつくったりすること			
社会やまわりの人の役に立つ活動をする			
人々が働いている場所で実際に経験すること			
自分ひとりで調べ、まとめていくこと			
仲間と一緒に調べ、まとめていくこと			
調べるときに本や図鑑で情報を集めること			
調べるときにコンピュータで情報を集めること			
調べるときに会いに行ったり電話をしたりして、直接話を聞くこと			
教科などで学習したことを総合的な学習の時間の中で使うこと			
集めた情報をじっくりと時間をかけて整理すること			
調べたことをノートやワークシートなどに記述すること			
調べたことを模造紙や新聞にまとめること			
調べたことを表やグラフにまとめること			
調べたことをコンピュータなどを使って発表すること			
○ 調べたことを簡単な劇や紙芝居にして上演すること			
○ 調べたことを学校の友だちの前で発表すること			
○ 調べたことを地域の人たちの前で発表すること			
○ 学習カードや振り返りカードなどで、自分の活動を振り返ること			
○ 振り返りをした結果から学習の進め方を変更したり、追加したりすること			
○ 仲間の活動について意見や感想を言う(書く)こと			
○ 自分の活動について仲間から意見や感想を言って(書いて)もらうこと			
○ 調べ方やまとめ方について先生がアドバイスしてくれること			
○ どうすればよいか困ったとき、先生も一緒に考えてくれること			
○ 先生のアドバイスが自分の活動にとっても役に立ったこと			

【4】総合的な学習の時間のさまざまな活動を通して、あなたが感じたり、考えたり、できるようになったりしたことから教えてください。①～⑳までのすべての項目について、もっとも近いものを1つ選んで を付けてください。

	とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
自分の力で調べたり活動したりするようになってきた。				
あきらめずに最後まで粘り強く取り組むようになってきた。				
新しいことにチャレンジするようになってきた。				
“なぜ”“どうなっているの”などの疑問をもつようになってきた。				
物事をすすめる時に見通しをもった計画を立てるようになってきた。				
課題に対していろいろな考えをもつようになってきた。				
自分の考え方や学び方について他の人と比べるようになってきた。				
情報を集めるためにいくつかの方法を考えるようになってきた。				
目的に応じて必要な情報を選ぶようになってきた。				
集めた情報の関連性を考え整理できるようになってきた。				
集めた情報に対して自分の考えをもてるようになってきた。				
自分の考えを自信をもって言えるようになってきた。				
自分の考えをわかりやすく伝える工夫をするようになってきた。				
相談して何かを進めることが楽しくなってきた。				
友だちのよさに気付くようになってきた。				
地域や学校で大人とあいさつや会話をすることが増えた。				
人に対する話し方や聞き方に気を配るようになってきた。				
まわりの人に積極的にかかわるようになってきた。				
活動について自分自身で振り返るようになってきた。				
活動についてさらによい方法を考えるようになってきた。				
○ 自分のよさや得意なことがわかるようになってきた。				
○ 自分の苦手なことや努力することがわかるようになってきた。				
○ 自分の成長や自分に身に付いた力に気付くようになってきた。				
○ 教科などで習ったことを総合的な学習の時間で生かせるようになってきた。				
○ 教科などの学習にあらためて興味をもつようになってきた。				
○ 教科などにおける勉強の大事さがわかるようになってきた。				
○ まわりの人々の生き方や仕事に関心をもつようになってきた。				
○ 社会や身近な人のためにできることをしたいと思うようになってきた。				
○ 自分の将来や進路について考えるようになってきた。				
○ これからの学習や生活で自信をもって取り組めるものがはっきりしてきた。				

【5】総合的な学習の時間に学んだことや経験したことで、「やってよかった」「役に立った」と思ったことがありましたら、その内容を具体的に書いてください。

【6】教科などで勉強したことで、「総合的な学習の時間で使ったこと」「総合的な学習の時間で役に立ったこと」がございましたら、その内容を具体的に書いてください。

調査用紙は、東京都教職員研修センターホームページのWEB速報一覧、平成15年度「総合的な学習の時間の成果に関する調査研究」資料に掲載してあります。